

笠岡市・里庄町自立支援協議会

●地域生活部会（原則 毎月第4月曜日 13時30分から）

	事業所・団体名	職名等	氏名	備考
1	ときわ	支援課長	友國 康司	部会長
2	障害者支援施設こうのしま荘	指導員	有岡 理美	
3	障害者支援施設笠岡学園	副管理者	杉本 秀幸	
4	笠岡市・里庄町相談支援センター	相談支援専門員	村本 めぐみ	
5	かさおか発達・生活サポートセンター	相談支援専門員	内田 公子	
6	笠岡市	係長	高本 聡	
7	笠岡市	社会福祉士	妹尾 昌哉	
8	里庄町	主事	土倉 幸大	
9	生活介護事業所 三洋	管理者	柚木 太陽	
10	生活介護事業所 三洋	支援員	原口 孝路	
11	多機能型事業所 すみよしキッズ	管理者	野村 泉	
12	西備支援学校	進路指導主事	原田 稚子	
13	備中保健所井笠支所	主任	坂本 三貴	
14	公益財団法人仁和会 ももの里病院	精神保健福祉士	木野内 留美	

令和3年度部会年間活動報告

部会名	地域生活部会	代表	ときわ 友國 康司
テーマ	緊急時の受入れについて		
開催日	会議【8月30日、9月27日、10月25日】		
内 容	<p>本年度の取り組みとして、「緊急時の受入れ」と決まる。</p> <p>各参加機関の現状を把握ためアンケートを行い、下記の現状や課題が上げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の受入れはほとんどない。 ・基本的には、常時緊急時の方を受入れているが、現在は新型コロナウイルスの影響で緊急時の受入れを控えている。 ・職員体制などの問題からすべてのケースを受け入れるのは難しく、施設入所の利用者に影響が出ない範囲での受入れとなる。 ・保護者が緊急入院などによって障害者の支援ができない場合、計画相談員が毎日送迎を行うなどの支援を行っていることもある。 ・基本緊急時の受入れを行う方針のため、ある程度リスクがある中で受入れを行っている。 ・ハード面や医療面などの専門性の部分から受入れが難しい場合もある。 ・障害児の緊急受入れの相談もあるが、受入れできる場所もなく対応に苦慮する。 ・児童相談所に一時保護などを相談しても、保護決定に会議を要すなど迅速な対応が難しい。 <p>課題を解決し緊急時の受入れ体制をどう整えるかについて協議。</p> <p>地域生活拠点等の緊急受け入れについて議論することで方向性を確認。</p> <p>(1) 地域生活拠点の整備</p> <p>資料を参考に地域生活拠点等についての説明、整備することで得られる加算措置、近隣市町村の事例紹介などを行った。あわせて部会において「緊急時」についての定義を協議し、次のような状態があてはまるとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者が急にいなくなった（2日以内【病気・ケガ・葬式等で】） ・住まい、行き場がない（火事・出所等で）・命にかかわる時 ・虐待 <p>(2) 今後の活動内容について</p> <p>新進的に実施されている地域を参考に、地域生活支援拠点の整備方法を習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県のアドバイザーに地域生活拠点等について講師を依頼し、日程調整中。 <p>講師：社会福祉法人泉学園 岡山南障害者支援センター 相談支援アドバイザー 村上 眞 様</p>		
次年度の計画	地域生活支援拠点の整備（緊急時の受入れ体制の整備）【継続】		

笠岡市・里庄町自立支援協議会

●就労部会（日程調整の上、随時開催【月1回程度開催】）

	事業所・団体名	職名等	氏名	備考
1	多機能型事業所かさおか	管理者	新居 宏介	R3 部会長
2	多機能型事業所 HappyComeCome	サービス管理責任者	塚口 博之	R4 部会長
3	里庄町「四つ葉の家」	サービス管理責任者	山崎 和幸	
4	ヴィレッジ興産	サービス管理責任者	川崎 裕美	
5	笠岡市・里庄町相談支援センター	主任相談支援専門員	江木 京子	
6	笠岡市	係長	高本 聡	
7	笠岡市	嘱託（就労支援員）	別府 英生	
8	倉敷障がい者就業・生活支援センター	所長	入江 玲子	
9	倉敷障がい者就業・生活支援センター	就労支援員	森定 典子	
10	さとみ	管理者	柚木 竜太	
11	西備支援学校	進路指導	原田 稚子	
12	多機能型事業所 HappyComeCome	管理者	塚口 可愛	
13	公益財団法人仁和会 ももの里病院	精神保健福祉士	木野内 留美	
14	公益財団法人仁和会 ももの里病院	作業療法士	高田 恵資	
15	コーリングサポ笠岡		山内 雄司	
16	コーリングサポ笠岡		高村 颯	
17	コーリングサポ笠岡	管理者	山崎 裕昌	

令和3年度部会年間活動報告

部会名	就労部会	代表	多機能型事業所かさおか 新居 宏介
テーマ	就労事業所の課題についての調査		
開催日	会議 / 全5回 (R3. 8. 17・9. 14・11. 2・12. 7・R4. 4. 25)		
内 容	<p>1回目 令和3年8月17日(火) 参加者 12名/15名 協議事項 ・就労部会員の自己紹介 各事業所, 学校等の概要, 取組状況 ・取組方針 企業開拓</p> <p>2回目 令和3年9月14日(火) 参加者 14名(ZOOM5名)/15名 協議事項/取組方針 ・企業訪問の前に実際の程度就労希望等があるのか確認するため各事業所の職員, 利用者を対象にポストイットを実施し, 事業所の要望をもとに課題について見出す。 ・後日, 笠岡市, 里庄町のA型, B型, 就労移行事業所10施設に部会員数名で依頼, お願いをしてまわる。</p> <p>3回目 令和3年11月2日(火) 参加者 6名/14名 協議事項 ・リンクスライヴの「ノウフクJAS」の取組 / ハンズの「よつぼしトナー」取組 ・部会メンバーで回収した各事業所の要望について整理。</p> <p>4回目 令和3年12月7日(火) 参加者 9名/14名 協議事項 ・農福連携について新聞記事紹介 / 障害者週間の啓発活動について意見交換 ・前回の会議で12項目に分けた要望を参加しているメンバーで分け, 次回会議までに集約と要約を行う。</p> <p>5回目 令和4年4月25日(月) 参加者 8名/17名 協議事項 ・新規事業所(コーリングサポ笠岡)紹介 ・事業所等の課題整理。</p>		
次年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・研修 ・企業, 事業所の見学 		

笠岡市・里庄町自立支援協議会

●相談支援部会（毎月第3水曜日 午前中）

	事業所・団体名	職名等	氏名	備考
1	笠岡市・里庄町相談支援センター	相談支援専門員	村本 めぐみ	部会長
2	かさおか発達・生活サポートセンター	管理者兼 相談支援専門員	内田 公子	
3	かさおか発達・生活サポートセンター	相談支援専門員	春尾 奈美子	
4	かさおか発達・生活サポートセンター	相談支援専門員	今井 智恵子	
5	かさおか発達・生活サポートセンター	相談支援専門員	三原 香	
6	こうのしま荘障害者相談支援センター	相談支援専門員	竹内 恒夫	
7	相談支援事業所 催花雨	管理者兼 相談支援専門員	秀平 尚子	
8	相談支援事業所 山陽	管理者兼 相談支援専門員	大嶋 広行	
9	ときわ相談支援事業所	相談支援専門員	樋之津 孝江	
10	特定相談支援事業所すみれ	相談支援専門員	山本 美咲	
11	のぞみ計画相談支援事業所	相談支援専門員	山本 広美	
12	笠岡市・里庄町相談支援センター	主任相談支援専門員	江木 京子	
13	笠岡市健康福祉部地域福祉課	主任主事	鶴藤 哲也	

令和3年度部会年間活動報告

部会名	相談支援部会	代表	笠岡市・里庄町相談支援センター 村本
テーマ	地域課題の抽出と事例検討		
開催日	令和3年8月24日(火)9:30~12:00、令和3年9月15日(水)15:30~17:15、 令和3年10月20日(水)9:30~11:30、令和3年11月24日(水)13:30~15:30 令和3年12月15日(水)13:30~15:00、令和4年3月4日(金)15:00~17:00		
内 容	<p>第1回目の部会で代表者の選出を行った。また、開催頻度と内容について話し合いを行い、以下のように決定する。</p> <p>開催頻度：原則第3水曜日の午前中(9:30~11:30)</p> <p>検討内容：奇数月は地域課題の抽出（フォーマットに困りごとや疑問を記入し順次代表へ提出する） 偶数月は事例検討（基本は担当者を事前に決定して行うが、緊急で検討した方がいい事例があれば変更して行う）</p> <p><地域課題の抽出></p> <p>相談支援専門員として業務を行う中で、困ったことや疑問に感じたことなどをそれぞれの相談員が発表し、課題を抽出している。一つ一つの課題に対して解決のために必要なアイデア出しを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイやヘルパーなど福祉サービスの不足 ・手続き上の書類やルールについての要望 ・計画相談、福祉サービスなどの質の向上の課題 <p><事例検討></p> <p>事例検討を通して、それぞれが抱えている困り感の共有や解決に向けたアドバイスなどを行う。これにより、一人一人の相談員が抱え込むことなく業務を行い、知識の積み上げと視野の拡充を獲得することで相談員としての質の向上と孤立を解消する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親なき後のサービスの組み立てについて ・本人の意思決定支援と家族による本人の障害特性への理解について <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所情報共有 ・就労継続支援B型への見学 ・新規事業所の職員による事業所紹介 		
次年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の抽出 ・事例検討の実施 		

笠岡市・里庄町自立支援協議会

●こども連絡会（年1回程度開催）

	事業所・団体名	職名等	氏名	備考
1	子ども療育センター笠岡学園	児童発達支援管理責任者	小村 利江	
2	こどもサポート教室「きらり」笠岡校	管理者	川上 尊世	
3	多機能型事業所 すみよしキッズ	管理者	野村 泉	
4	夢門塾ゆうゆう笠岡（1組）	管理者	陶山 恵子	
5	夢門塾ゆうゆう笠岡（2組）	管理者	安部 美奈子	
6	おひさま笠岡事業所	児童発達支援管理責任者	山下 佳子	
7	こどもアシスト『ぽの』 笠岡教室	管理者	清水 翔太	
8	ハーモニーネット未来	主任	高原 英津子	
9	キッズデイサービスひかり	管理者	高見 典子	
10	発達支援センター さとしょう	児童発達支援管理責任者	前原 千恵	
11	かさおか発達・生活サポートセンター	管理者	内田 公子	
12	かさおか発達・生活サポートセンター	主任	春尾 奈美子	
13	相談支援事業所 催花雨	管理者	秀平 尚子	
14	岡山県立西備支援学校	教育支援コーディネーター	田野 由子	
15	笠岡市地域福祉課	課長	三島 哲利	
16	笠岡市地域福祉課	主事	馬場 瞳	
17	里庄町健康福祉課	主事	土倉 幸大	

令和3年度部会年間活動報告

部会名	こども連絡会	代表	
テーマ	こども関係の情報交換		
開催日	令和4年1月12日(水)		
内 容	<p><情報交換></p> <p>1 自己紹介・各事業所からの情報</p> <p>【コロナによる影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の減少あり。利用が少なくなった子どもは、久しぶりの利用でソワソワしたり、輪に入りづらかったり影響がある。在宅ワークが増え、家で子どもを見れるため利用しなくなる家庭もあった。 ・良い面では、感覚過敏の子どもがマスクなどに慣れたり、手洗いやうがいの習慣づけをすることができた。悪い面では、宿泊学習がなくなり、今後に影響が出なければいいと思う。 ・オンラインでの支援になるため、対面ではない難しさがある。保護者からは、通所させないで支援を受けられるため、良い声もある。 ・2部制になり、職員体制の確保が難しかった。濃厚接触者が出た場合、PCR検査を受け陰性を確認してから利用といった流れになるが、PCR検査の費用を賄えないため、結局は利用を控えてもらうことになり苦労した。 <p>⇒手指消毒や対人関係の物理的な距離感などを徹底しなければならなかったので、習慣づけをすることができた。</p> <p>2 課題等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中一時をする事業所が少ない。 <p>(要因) 報酬額が少ない【放デイや児発に比べ半分程度】</p> <p>送迎ができないため、働いている保護者が利用しづらくなる</p> <p>手厚い支援が必要な子どもは、利用することが難しい場合が多い</p> <p>【職員が放デイや児発より少ない状況でも開設可能であるため】</p>		
次年度の計画	こども関係の情報交換【継続】		